



輝け！北っ子！



北小の伝統行事「筆供養」 ～鉛筆に感謝の気持ちを込めて～

7日のお昼の放送で「筆供養」を行いました。北小の卒業生や保護者の方は、周知の行事のことと思いますが、あらためて説明します。筆供養とは画家や書家が使い古した筆を「筆塚」に納めて供養し、感謝の気持ちを表す行事のことでした。北小の場合には、大山忠作先生のご寄付で昭和48年に作られた「筆塚」に短くなった鉛筆を納めることを通して、学用品に対する感謝の心を育むと同時に、母校を愛する大山先生の深い心情に触れることを目的としています。

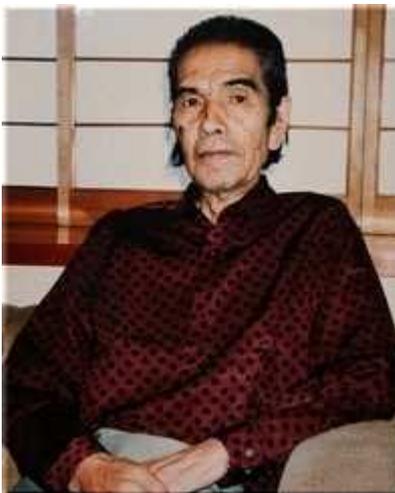
昨年度に続き今年もコロナ禍のため、放送での実施となり、集会委員会児童に大山先生と筆供養についての説明をしてもらいました。今後は、各学級であつめた短い鉛筆を集め、筆塚に納めたいと思います。今回で50回目となる北小ならではの伝統行事。これからも大切に続けていかなければと思いました。

7日のお昼の放送で「筆供養」を行いました。北小の卒業生や保護者の方は、周知の行事のことと思いますが、あらためて説明します。筆供養とは画家や書家が使い古した筆を「筆塚」に納めて供養し、感謝の気持ちを表す行事のことでした。北小の場合には、大山忠作先生のご寄付で昭和48年に作られた「筆塚」に短くなった鉛筆を納めることを通して、学用品に対する感謝の心を育むと同時に、母校を愛する大山先生の深い心情に触れることを目的としています。



大山 忠作先生 (オオヤマ チュウサク) 大正11年5月5日～平成21年2月19日

■略歴・解説■ (二本松市教育委員会 IT美術館より)



染物業を営む大山豊治・きくの次男、2男4女の第3子として生まれる。幼児期を安達太良山と阿武隈川に囲まれた自然環境の中で過ごし、二本松第二尋常高等小学校卒業後に上京、東京美術学校(現.東京芸術大学)で日本画を学ぶ。第2次世界大戦の戦況悪化により、学徒出陣のため繰り上げ卒業となり戦地へ向かう。

終戦を迎え戦地から復員すると、東京都美術館で開催中だった第1回日展を見て感動し、制作意欲を掻き立てられ、第2回日展では「O先生」を初出品し初入選。以後、日本画研究団体「一采社」に参加、山口蓬春に師事し、日展を主な舞台として、描きたい物を描くという姿勢で、人物から宗教、花鳥、風景画まで幅広い題材の作品を発表し続ける。代表的な業績としては、法隆寺金堂壁画再現模写への参加、日本芸術院賞受賞作「五百羅漢」、成田山新勝寺光輪閣襖絵「日月春秋」28面及び「杉」「松」「竹」22面、同じく聖徳太子堂壁画6面「白鷺」「蓮」「桜」「牡丹」「菊」

「楓」の制作などが挙げられ、日展においても、理事長、さらには会長として日本最大の芸術団体の舵取りを行い、わが国の芸術文化の振興・発展に尽力したことが特筆される。平成18年には、写生を踏まえた平明で骨太な描写、さらにその画技と団体への貢献により、芸術文化の向上に寄与したことが認められ、文化勲章を受章した。

保護者の皆様からの声をお待ちしています。

～学校に対するご意見・ご感想等お気軽にお寄せください(または assist.nihonmatsukita-c@fcs.ed.jp まで)～

..... 切 り 取 り 線

福島県のまん延防止等重点措置は3/6で解除になりましたが、厳しい状況に変わりありません。一層厳しさを増しているといってもいい状況です。北小はこれまで通り、子どもの健康を第一にリスクの高い教育活動の停止、できる限り交流活動の停止等、これまでの新型コロナウイルス感染症対策を継続します。ご理解とご協力をお願いいたします。

また、10代、10代未満の感染者の増加、家庭内での感染が増えています。家庭内での対応につきましても、引き続きどうぞよろしくお願いします。

新型コロナウイルス感染症への対応

- 子どもたちの毎日の検温、体調確認。下校後の行動確認
(外出、習い事等)。
- できる限り不織布マスクの着用。正しい着用の推進。
- 手洗い・換気等の励行。密の回避。
- 子ども、同居家族に風邪の症状が見られた場合の登校自粛。
病院受診。
- 児童・家族の抗原検査・PCR検査の受検(結果を待たずに)
濃厚接触者認定・可能性、学級閉鎖等あれば、できるだけ早い学校
への連絡。
 - 平日・日中—学校 0243-23-0029
 - 休日・夜間—学校携帯 080-2814-4808
- 不要不急の外出の自粛。 等

～ よろしくお願いします ～